

熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

■ 事業のセールスポイント

本市の課題解決に向けたスマートシティ戦略のコンセプトとして、市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市 熊谷」を目指す。

■ 位置図

- 東京都心から50～70km圏に位置。
- JR熊谷駅から東京駅まで上越・北陸新幹線で約40分、在来線では上野駅や新宿駅まで60分台でアクセス可能。
- 秩父方面や羽生方面から秩父鉄道も乗り入れており交通の要衝である。

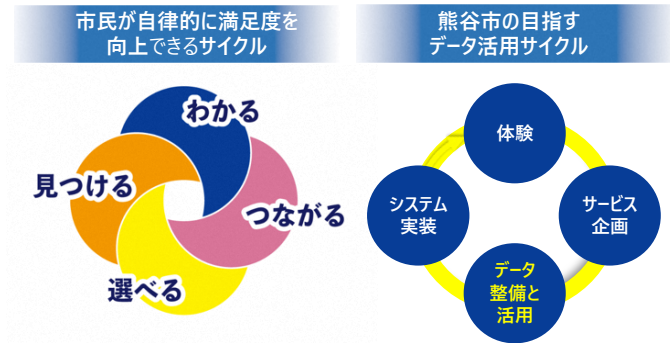


■ 本事業全体の概要

本事業においては以下2点を踏まえ、熊谷スマートシティの推進を図る。

①熊谷スマートシティのトータルブランディング方針

本市が行うスマートシティ政策のブランドアイデンティティの統一のため、スマートシティ政策の範囲や考え方、基本的な方針、キーワード等を記載した「熊谷スマートシティのトータルブランディング方針」を定め、2つのサイクルが好循環するイメージの明確化及び、熊谷スマートシティにおけるデザイン、ビジュアル、キーワードなどの統一化を図る。



■ 対象区域の概要

名称：埼玉県熊谷市
 面積：159.82km²
 人口：191,245人（令和6年11月1日現在）
 その他：利根川と荒川のもたらす肥沃な台地を背景に農業・工業・商業がバランスよく発展。上越・北陸新幹線に代表される鉄道を中心とした公共交通機関の発達、4つの国道の接続する道路網の充実により、埼玉県北部の中心都市としての機能を担う

■ 対象区域のビジョン

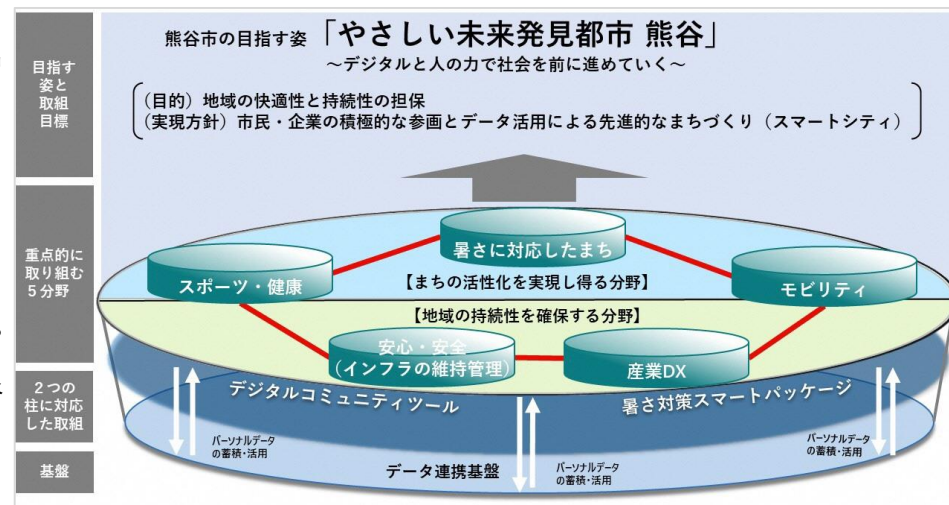
「やさしい未来発見都市 熊谷」の実現に向けた取組の展開

②「やさしい未来発見都市 熊谷」実現のためのスマートシティ戦略

市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市 熊谷」を目指す。

また、課題解決に向けた具体的戦略として、「デジタルコミュニティツールの導入」と「暑さ対策スマートパッケージの提供」を中心としたスマートシティサービスを展開する。

さらに、横断的なコンセプトとして、市民や企業、団体等が、熊谷スマートシティのあらゆる分野、取組等に“クールに”関わることができる環境「スマートクールシティ」を目指す。



熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

■ スマートシティの目標（KPIの設定）

課題解決に向けたKPIを以下のように設定する。KPIの有効性については毎年度確認を行い、必要に応じて見直しを行うことで成果の検証方法についても改善していくことを想定する。※KPI（Key Performance Indicator）＝重要業績評価指標

※一部（主要3分野）の指標について記載

【アウトプット指標】

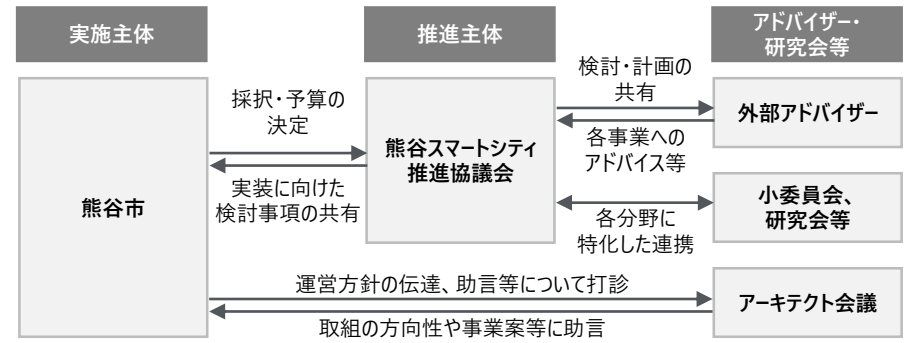
分野	KPI【計測標準単位】	目標値	現状値
【環境・社会】	緑化率【%】	3.17%	4.86%
	緑地率【%】	35.35%	35.00%
	緑地率【%】	35.00%	35.00%
	緑地率【%】	35.00%	35.00%
【経済・産業】	人口増加率【%】	-	-
	人口増加率【%】	-	-
	人口増加率【%】	-	-
	人口増加率【%】	-	-
【文化・観光】	観光客数【人】	1,000	1,000
	観光客数【人】	1,000	1,000
	観光客数【人】	1,000	1,000
	観光客数【人】	1,000	1,000

【アウトカム指標】

分野	KPI【計測標準単位】	目標値	現状値
【環境・社会】	緑化率【%】	3.17%	4.86%
	緑地率【%】	35.35%	35.00%
	緑地率【%】	35.00%	35.00%
	緑地率【%】	35.00%	35.00%
【経済・産業】	人口増加率【%】	-	-
	人口増加率【%】	-	-
	人口増加率【%】	-	-
	人口増加率【%】	-	-
【文化・観光】	観光客数【人】	1,000	1,000
	観光客数【人】	1,000	1,000
	観光客数【人】	1,000	1,000
	観光客数【人】	1,000	1,000

■ 運営体制

熊谷スマートシティの取組体制は、本市が抱える多様な課題解決に向けた実証的取組が可能な事業実施体制の構築を図るため、「官・民・学」が連携した熊谷スマートシティ推進協議会を中心に構成される。



■ 導入技術

「デジタルコミュニティツール」の活用と、本市が培った暑さ対策のノウハウを活かした「暑さ対策スマートパッケージ」の提供など、先進的技術を積極的に活用しながら、各分野でスマートシティサービスを展開し、本市の目指すまちづくりの実現を目指す。

デジタルコミュニティツールの導入

熊谷スマートシティサービスの入口となる都市ポータルアプリ「クマぶら」を中心に、地域電子マネー、コミュニティポイント、コミュニティバスのスマホ回数券を導入する。

暑さ対策スマートパッケージの提供

長年培ってきた暑さ対策のノウハウを活かし、暑さの中でも市民や来訪者が快適にまちなかを回遊できるよう、ヒートエリア、クールシェアスポットを地図上に重ねて表示する「暑さ対策スマートパッケージ」を提供し、コミュニティポイントとも連携する。

データ連携基盤の導入

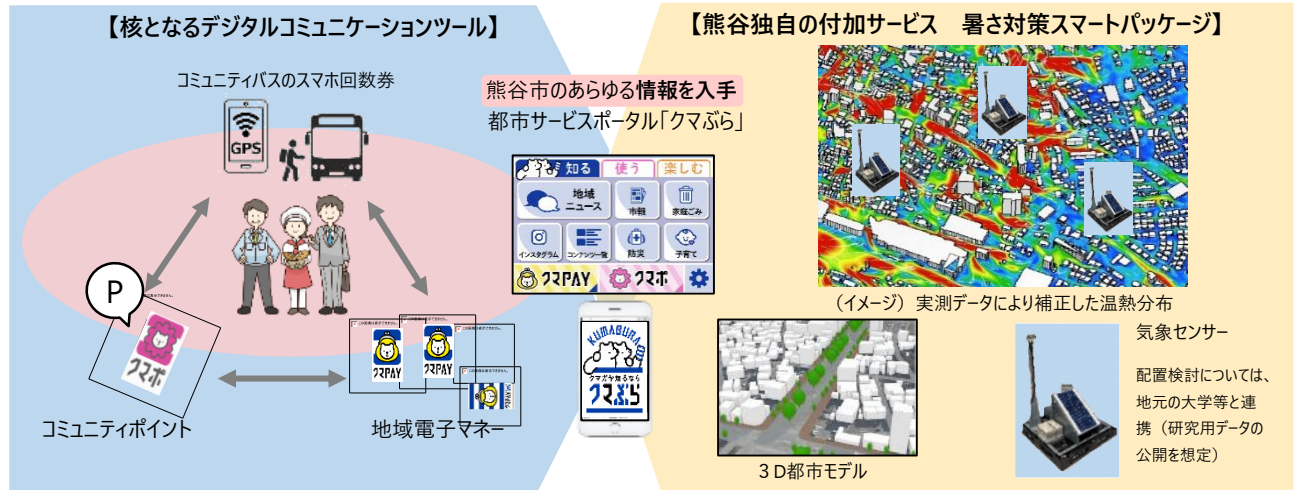
スマートシティ戦略を支える重要なプラットフォームを整備する。

熊谷版リビングラボ「コミュニティラボ」の取組

WEB上での公民一体となって自由に語り合う場の設置

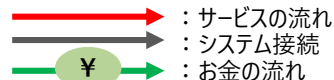
市民参加型デジタルプラットフォームによる市民参画の推進

WEBブラウザで利用できるデジタル立体地図環境の提供



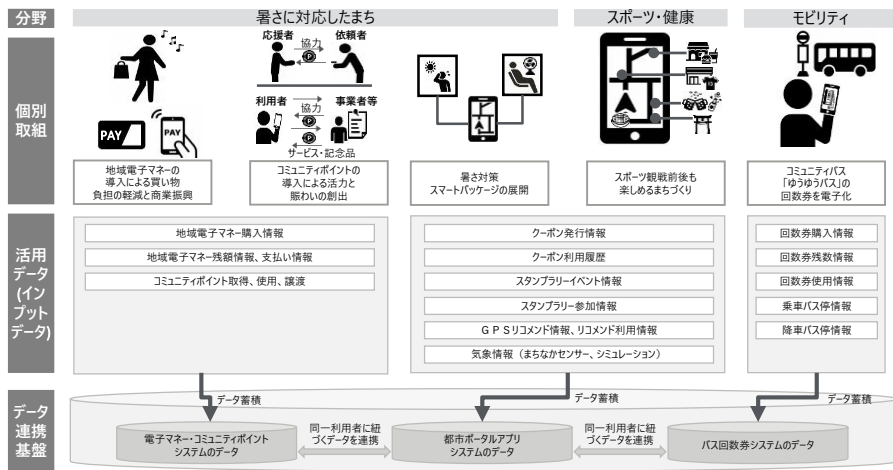
■ ビジネスモデル

熊谷スマートシティを持続可能な取組とする仕組みとして熊谷スマートシティビジネスモデルを検討。



■ データ活用

本市のスマートシティの取組目標として掲げる「地域の快適性と持続性を担保し、市民参加とデータ活用により先進的なまちづくり」の実現に向け、各分野においてデータを活用した取組を実施する。



■ デジタル人材の育成

熊谷スマートシティが将来にわたり持続・発展していくために、具体的取組の実装と併せ、以下の各分野において人材育成に係る取組を実施し、熊谷スマートシティの持続的発展に向けた好循環を生み出す。

市民に対するスマートシティ・D Xに係る多様な機会創出

「スマートクールシティ」の理念のもと、あらゆる世代の市民に対し、スマートシティやD X、データ活用に係る多様な機会を積極的に提供する。

3D都市モデルの活用に係る市民ワークショップや本市のまちの未来を描く「シーンスケッチコンテスト」等のイベント開催、都市ポータルアプリ「クマぶら」で活用するデータの提供呼びかけ、市が開催する各種講座・教室等のオンライン化の実施など、市民が熊谷スマートシティやD Xの推進に参画できる機会を数多く創出することにより、ITリテラシーの底上げや、公民が連携したデータ活用まちづくりとの連動、未来の熊谷を共創していくための機運醸成を図る。



シーンスケッチコンテスト



3D都市モデル市民ワークショップ

市役所内部におけるD Xスキルの向上と蓄積

市民や産業分野のデータ活用・D Xの取組を促進するためには市役所が率先してデジタル人材育成に取り組み関係者のつなぎ役を果たすことを目指すべきであり、市役所職員全体に対するIT、自治体D X、E B P M等のリテラシー向上の取組と並行して、熊谷スマートシティの持続サイクルの上で必要なスキル・視点の定着を図る。

産業D Xの推進・産業創造

- 市内事業者のD Xを応援する取組や、自社のD X化を推進する取組に対し、ふるさと納税型クラウドファンディングを実施し支援する。
- 市内におけるスマートシティに係る実証実験等を積極的に誘致する。
- 気象センサーの観測データ、各種モコンデータ、シミュレーションや分析結果などを本市の資産として活かす方策として、外部人材や大学等の研究機関と連携し、本市において実証されたデータ取得や分析の手法等を他都市で応用可能な形で整理し、ビジネス化することを目指すワークショップ等を検討する。



ふるさと納税型クラウドファンディング